

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和元年8月19日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策
作物	<p>水稻</p> <p>○<u>平年並の生育ステージで、生育量も茎数がやや少ないが目立った障害は見られず、全般に順調である。</u> ・5月10日田植は出穂がやや遅く、茎数やや少なく、葉色はやや濃い。 (ひとめぼれ:出穂期7/24(平年比1日遅)、茎数少なく、草丈も短め、葉色は濃い。コシヒカリ:出穂期7/29(平年比2日遅)、茎数は少ないが、草丈は平年並。葉色はやや濃い。 ○5月24日田植は、出穂期は平年並～やや早く、茎数は平年並～やや少なく、草丈は平年並、葉色は平年並からやや濃い。 (コシヒカリ:出穂期 8/3 (平年並)、茎数は少ないが、草丈、葉色は平年並。星空舞:出穂期 8/7(前年比2日早)、茎数少なく、草丈も短い。葉色は濃い。きぬむすめ:出穂期8/14(平年並)、茎数、草丈ともに平年並。葉色は淡い。)</p>	<p>○<u>登熟期間(7月末～)中、高温が続いているため、コシヒカリ、ひとめぼれ等について、白濁米等の発生が懸念されるため以下の対策を行う。</u> ・<u>登熟前半(出穂期から20日間程度)にかけて可能な範囲で給水を潤沢にし、水温の上昇を抑制する。</u> ・<u>適期落水を行う(完全落水は出穂後30日以降)。</u> ・<u>適期収穫の励行(収穫遅延は品質低下を助長する)。</u></p>
	<p>大豆</p> <p>○<u>一部で湿害や雑草が多いほ場が見られるが、全般に生育は順調で目立った障害は見られない。</u> ・6月中旬播種においては、開花時期は、平年に比べて1日遅く、開花期の生育は、草丈・主茎長が長く、分枝数がやや少ない傾向であり、目立った障害は観察されていない。</p>	<p>○<u>生産安定のために以下の対策を行う。</u> ・<u>可能な範囲での開花期かん水の励行。</u> ・<u>カメムシ及び紫斑病等を対象にした病害虫防除の励行。</u></p>
果樹	<p>ナシ</p> <p>【ハウス二十世紀】 ・8月1日より選果が始まり、18日で選果終了した。 【露地二十世紀】 ・8月10日の事前査定会では、昨年よりやや小玉であるが、平年並みの生育と判断された。8月21日に査定会が開催される予定。 【なつひめ・新甘泉】 ・「なつひめ」は、19日初販売、「新甘泉」は24日初販売される計画、ほぼ平年並みの生育となっている。</p>	<p>・<u>露地栽培の「二十世紀」は、8月27日に初販売される計画</u> ・<u>カメムシ類の注意報が発表されており、引き続き園内を見回り、発生が確認されたら早めに防除を実施する。</u> ・<u>台風に対する対策を事前に準備しておく。</u></p>
	<p>カキ</p> <p>・<u>「輝太郎」では、盆前後から生理落果が始まっている。</u> ・<u>高温の影響で、直射日光の当たる果実では、日焼け果が発生している。</u></p>	<p>・<u>「輝太郎」は、生理落果が落ちついてから最終着果数とする。</u> ・<u>カメムシ類の注意報が発表されており、引き続き園内を見回り、発生が確認されたら早めに防除を実施する。</u> ・<u>台風に対する対策を事前に準備しておく。</u></p>
	<p>ブドウ</p> <p>・<u>梅雨明けから夜温が低下したため、「巨峰」「ピオーネ」の着色は順調に進んだ。</u> ・<u>糖度は高めたが、酸度もやや高い傾向であった。</u> ・<u>「シャインマスカット」は、前年同様に8月下旬から出荷予定。</u></p>	<p>・<u>ハマキムシ類、スリップス類の発生に注意が必要。</u></p>
野菜	<p>白ねぎ</p> <p>【春ネギ】 生育は高温により生育停滞気味となっており、例年よりやや遅いが概ね順調。一部で萎凋病や葉先枯れがあるが、影響は少ない。 【夏ネギ】 出荷中だが軟腐症状の発生が目立ってきており、市場で腐敗事例もある。スリップスの発生も増えている。 【秋冬ネギ】 生育は高温により停滞気味となっており、例年よりやや遅れているが概ね順調。軟腐症状や白病病が目立ってきている。</p>	<p>・<u>軟腐病、白病病、ネギアザミウマの防除を引き続き徹底する。</u> ・<u>夏ネギは収穫可能となった場合はできるだけ早く出荷するとともに、出荷調整時の軟腐症状の選別、作業時の伝染防止を徹底する。</u> ・<u>春ネギ、秋冬ネギはかん水が可能なほ場ではかん水を行い生育を促進する。</u> ・<u>今後の台風等による大雨に備え、明渠など排水対策を徹底する。明渠が土砂の流入などで浅くなっている場合は、スムーズに排水するよう土砂を取り除いておく。</u></p>
	<p>ブロッコリー</p> <p>【秋冬どり】 中山間部では7/20頃から、平坦部では8/1頃から順次定植が進んでいる。定植はほぼ例年通りで進捗は2割程度。 盆前の高温乾燥により、一部、かん水が不十分なほ場で苗が枯死した事例があったが、大きな問題は生じていない。</p>	<p>・<u>播種は8月末まで、定植は10月中旬まで続く見込み。</u> ・<u>降雨が見込めない場合は定植後から活着までのかん水を徹底する。</u> ・<u>台風等による大雨に備え、明渠など排水対策を徹底する。明渠が土砂の流入などで浅くなっている場合は、スムーズに排水するよう土砂を取り除いておく。</u> ・<u>黒すす病の対策を徹底する(排水対策及び予防防除)。</u> ・<u>今後の台風の進路に注意し、場合によっては台風が通過してから定植する。</u></p>
	<p>ながいも</p> <p>・7/20の試験掘りの結果では、 ナガイモ:芋重263.7g(平年比:86.1%)太さ4.2cm(平年比:94.0%)で平年より少し遅れている。 ねばりっこ:芋重337.4g(平年比:108.0%)太さ4.0cm(平年比:99.8%)で平年並の生育。 ・炭疽病・ハダニなどが散見されている。</p>	<p>・<u>早期落葉を招かないように、炭疽病、ナガイモコガ、ハダニ類の発生に注意し、防除を徹底する。</u></p>
	<p>アスパラガス</p> <p>・<u>日出荷量はほぼ平年並みとなっているが、梅雨明け以降の猛暑の影響で、曲がり、変形果の発生などで品質が低下している。</u> ・スリップス、ヨトウムシ、茎枯病の発生がみられる。</p>	<p>・<u>茎枯病、斑点病、スリップス類の防除を徹底する。</u> ・<u>乾燥時は過湿とならない適度なかん水を行う。</u></p>
	<p>夏秋トマト</p> <p>・<u>高温により収穫が進み、現在3～5段を中心に収穫。梅雨の日照不足の影響で上位段の花質が低下し着果数が減少していたが徐々に回復している。</u> ・8月上旬に青枯病、かいは病、コナジラミの初発が確認されたが産地全体的では軽微。オオタバコガの被害は増加傾向。</p>	<p>・<u>気温が低下とともに草勢は回復するとみられるが、花数の減少により一時的に出荷量が減少する見込み。</u> ・<u>草勢が低下しないよう、適宜、葉面散布剤を散布する。</u> ・<u>青枯病の発病株は抜き取りで対応する。</u></p>
	<p>ミニトマト</p> <p>・8月18日現在の秀品出荷量は昨年対比105%でやや多い。7月の気温が昨年より低く推移したことで着果が安定した影響とみられる。現在10段目開花中、4段目着色開始。 ・問題となる病害虫の発生は見られない。</p>	<p>・<u>果硬の折れが発生し始めており、今後、くもり果の発生が予想されるため、テーブナー等で軸折れ対策を行う。</u> ・<u>ハダニ類、すすかび病の発生に注意し、防除を徹底する。</u> ・<u>草勢が低下しないよう、薬剤防除とともに葉面散布剤を散布する。</u></p>
花き	<p>リンドウ</p> <p>【智頭町】 ・出荷始めは6/21からと昨年より5日遅くなった。また、盆前出荷向けの開花も7～10日程度遅れた。 ・7月上旬までは防除していることもありスリップス、褐斑病等の発生は少なかったが、7月中旬から2戸で褐斑病が発生している。 ・梅雨明け後は猛暑で、日中萎れが生じて生育が停滞しており、圃場によってはうね間灌水を呼びかけている。</p>	<p>・<u>引き続き防除を呼びかけるとともに、必要に応じて灌水を実施する。</u></p>
	<p>シンテツポウユリ</p> <p>【露地作型】 <八頭管内> ・<u>花蕾の見え始めが7月上旬からと、昨年に比べ7～10日程度遅れ、収穫のピークがずれ込んでいる。</u> ・<u>葉枯病、アブラムシは防除していることから少ない。</u> ・<u>昨年より2日早い7/25から出荷を始めたが、出荷者は少ない。8/1には8名が2,500本を鶴見、花満に出荷。8/4には6,000本、8/6には7,000本出荷。8/4から鳥取花市場にも出荷。</u> ・<u>梅雨明け後に、根傷みや灌水不足の影響で花や葉が焼けた圃場が2圃場ある。</u> ・<u>盆前に収穫のピークとならず、収穫残りのある圃場が1圃場あった。</u> <鳥取管内> ・<u>出荷が8/4から始まった。平年より1週間程度遅れたが、開花時期のばらつきは少ない。</u> ・<u>病気、生理障害の発生は少ないが、圃場によっては目立つ箇所もある。</u> <倉吉管内> ・<u>8月上旬から出荷始め。5日～7日程度生育が遅れており、盆直前に集中出荷し、収穫残りも見られる。</u></p>	<p>・<u>抑制作型はこれから花芽分化を迎えるため、日照不足にならないよう掘上げた圃場では、寒冷紗は除去する。</u></p>
	<p>トルコギキョウ</p> <p>【ハウス抑制作型】 <倉吉管内> ・<u>生育は順調。抽苔率は3割強となっている。</u> <東伯管内> ・<u>8/16時点の抽苔率50%で、8月以降の猛暑が続く天候のわりに非常に良好な生育となっている。(近年の同時期抽苔率:H30年35%、H29年23%)</u></p>	<p>・<u>抑制作型はアザミウマ類、オオタバコガの発生が懸念されるため、防除を徹底する。</u></p>
	<p>ストック</p> <p><倉吉管内> ・<u>最も播種の早い圃場は7/26播種。8/1以降、播種は順調に進んでいる。発芽は良好で問題ない。</u> <東伯管内> ・<u>現在播種最盛期。播種は計画通り行われている。発芽は順調。</u> <大山管内> ・<u>7月20日前後から播種が始まっており、昨年より5日早い。</u> ・<u>発芽率は平年並みである。</u> <西部管内> ・<u>7月中旬から播種開始(伯耆町)。</u></p>	<p>・<u>倉吉管内では今年からストック栽培を始めた生産者もあり、八重鑑別等、個別に指導する予定。</u> ・<u>今後、曇天が続く予報が出た場合は、胚軸の徒長を防止するため、寒冷紗は速やかに除去する。</u> ・<u>7月中旬播種(伯耆町)のストックは今月末には花芽分化すると思われる。</u> ・<u>生育初期のコナガ防除を徹底する。</u> ・<u>台風通過に伴う大雨の対策を呼び掛けていく必要がある。</u></p>
	<p>抑制アスター</p> <p><東伯管内> ・<u>早い播種分では発芽良好であったが、遅い作型で一部発芽不揃い、発芽不良がみられる。</u></p>	
	<p>キク</p> <p>【露地コギク】 <倉吉管内> ・<u>7月下旬から順次出荷開始。病害虫は見られず、予定通り盆前に収穫が終了した。</u> ・<u>彼岸出荷作型も生育揃いは良好で順調に生育している。</u> <東伯管内> ・<u>盆作型は順調に出荷された。</u></p>	<p>・<u>病害虫防除を徹底する。</u> ・<u>必要に応じて灌水を実施する。</u></p>
畜産	<p>飼料用トウモロコシ</p> <p>・各地区で今月上旬から収穫調整が開始されている。 ・<u>東部地区は8/5から(株)東部コントラクターにより収穫調整開始、収穫適期前で熟度が進んでいない傾向。草丈は280～300cm。</u> ・<u>日野地区では草丈250cm、出穂直後程度。発育は例年よりやや良好。</u></p>	<p>・<u>東部地区では台風や降雨の影響がなければ、今月末までに(株)東部コントラクターによる収穫は終了する予定。</u> ・<u>日野地区では9月に入ってから刈り取り時期を検討。</u></p>
	<p>イタリアンライグラス等</p> <p>・<u>東部の湖山地区牧草の収穫は、今月上旬分で3回目を実施しているが、イタリアンライグラスの収量は少なく、ヒエやダイオウなどの雑草が繁茂している状況。</u> ・<u>西部地区のスーダングラス刈取り、生育は順調。ヒエ(飼料利用)の生育が平年より遅れている傾向。</u></p>	<p>・<u>東部の湖山地区牧草は、来月下旬頃の収穫を予定。</u></p>
その他	<p>農作業安全</p> <p>・8月15日広島気象台発表の1ヶ月予報では、期間のはじめ、気温がかなり高くなる見込みです。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。 ・8月19日頃からの1週間は、気温がかなり高くなるのが予想されている。(高温に関する異常天候早期警戒情報8月13日発表)</p>	<p>【予防方法】 ・<u>真夏の炎天下や、高温多湿条件(高温のハウスや作業場)での作業はできるだけ控える(特に高齢者は要注意)。</u> ・<u>屋外では、風通しが良く、日射をさえぎる服装で作業する。</u> ・<u>農作業に出かける前に、コップ一杯の水分を飲んで出かける。</u> ・<u>農作業現場には必ず飲み物を持参し、こまめに水分補給する。のどの渇きを感じていなくても、20分おきにコップ一杯を目安に水分をとる(作業量に応じて加減する)。</u> ・<u>水分は一度に大量に飲むよりも、小分けにして頻りに飲んだ方が効果的。塩分も同時に補給する(コップ一杯に食塩ひとつまみが目安、塩飴やタブレットなどの活用も)。</u> ・<u>作業後にも水分をとり、失われた水分を補給する。</u> ・<u>前日に発表される熱中症警報等の気象情報を参考にするとともに、正午前後の気温の高い時間帯を避ける等計画的な作業を行う。</u></p>